

受章の喜び 思い新たに 紫綬褒章

2日付発表の秋の褒章で、学問や芸術などに貢献した紫綬褒章には全国で14人が輝いた。いずれもその分野で卓越した功績が認められた人ばかり。率直に語る受章の喜びに新たな思いを込めた。



京都大教授

野田

進さん (54)

光の制御で世界の先端

周期的な構造によって光の出し入れを自在に制御する「フォトニック結晶」の研究で世界のトップを走る。今年に入って同結晶を用いた半導体レーザーが製品化されており、「受章を励みに実用化をさらに進めたい」と意欲を語る。

三菱電機の研究者を経て1988年に母校の研究室に戻った。試行錯誤の末、ナノメートル(ナ)は10億分の1(1)の精度で半導体材料を加工する超精細な技術を駆使して、2000年にフォトニック結晶の作製を科学誌で発表する。以後の成果はめざましい。「自分が正しいと思うことが、正しくない」と理論的に示されない限り、そのことを粘り強くやり通すことが大切だ。強い信念こそが革新的な成果を生み出す秘訣だという。

(松尾浩道)